

尾瀬・大行山 山スキー

T野

メンバー：T野・I崎・H口y・A原

2026年2月11日

今回は、少し登り応えのある山行をと思い、宝台樹スキー場から武尊山の北面を往復するルートを考えていたが、なぜかこの日だけ予報が悪い。下界は本降りの雨、山でも湿った雪の予報で、武尊山北面はもとより、行くこと自体を考え直さなければならない予報である。さて、どうしたものか？

地元、昭和村に住むI崎さんによれば、「ゲレンデの気温が0℃前後だからおそらく雪だろう」という。それなら、距離もそんなに遠くないので、行くだけ行ってみようか。ただ、ルートは、武尊山北面は止めて、多少の悪天でも森の中メインで遊べる、過去に何回か行ったことのある大行山に転進することにした。ここなら、雨はさすがに勘弁だけど、雪だったら充分に楽しめるだろう。

転進を決めたのが、出発の前日。当初の計画と比べ、かなり緩い計画になったので、急遽、会で募集をかけるが、さすがに昨日の今日なのでエントリーしてくれる人はいなかった。

前日は21:00に練馬駅を出発。23:00過ぎにはI崎邸に到着。普段、秋田だ、岩手だと遠出をしているからか、群馬はホントご近所さんである。お陰で入山祝いは盛り上がり、せっかく早く着いても、結局、寝る時間は遅くなるのだから懲りない面々である。

2/11



ちゃんと6:00には起床し、尾瀬戸倉スキー場に向け出発。途中、コンビニで朝食を食べたり買出しをしたりしながら行くが、思ったより道が混んで結構時間がかかる。予定より30分以上スキー場に着くのが遅れ、出発は8:45になる。幸い天気は、小雪が舞う程度で風もなく、行動には全く支障がない。これは嬉しい誤算である。

◆写真 林道を歩く

1ピッチ林道を歩いて富士見下山荘跡に9:45着。前回は、この辺りから尾根に取付いたが、1450m～1550m付近が非常に急峻で、スキーでは登れず、シートラーゲンで強引に登ったという苦い経験がある。今回は、もう少し楽に登れそうな場所を・・・ということで、踏み跡が伸びている車道沿いをさらに進む。ただ林道を歩いていてもあまり面白くないので、途中から沢沿いを歩き、田代の手前の斜面に取付くことにする。

しかし、ここも1550m～1650mの間が急峻で、スキーで登るには結構テクニカルだ。I崎さんが必死にルートを切り開くが、ほんのわずかな距離にもかかわらず、結構苦勞させられた。



後で地図をよく確認すると、林道からアプローチする大行山南面は1450m～1650mのどこかに標高差100mほどの急峻な地形があり、その突破をいかに攻略するかで、だいぶ印象が変わってくると思う。

おそらく、一番楽なルートは、あまり面白みはなく、少し大回りにはなるが、田代まで林道を行き、1752m峰と1786m峰の鞍部を目指して登り、1752m峰の北側を巻いて大行山に至るルートだと思う。このルートなら、田代まではキャットトレースがあり、ラ



ッセルの心配やルートに迷う心配もない。急斜面も1600m付近にあるにはあるが、等高線は他より緩めだ。

そして、もう一つのルートは、富士見下山荘跡よりも手前にある、大カップ沢右岸尾根だ。ここも、地図を見る限り、急峻なところがあまりなさそうなので、大カップ沢出合手前の硫黄沢にスノーブリッジがあって容易に渡れば、大行山には最距離で登れるので有力候補となるだろう。

ただ、急峻な地形に苦勞するとはいっても標高差100mほどなので、逆にシール歩行の練習と割り切れば、それほど苦になるものではない。今回、僕たちがしたように、人のトレースを当てにせずに、自由に自分でルートを考えて登るのも、またひとつの楽しみだと思う。

◆写真上 林道だけど雰囲気は悪くない

◆写真中 カラマツ林

◆写真下 気持ちの良い疎林



さて、話を戻すと、この急峻な100mを、シール登高技術を屈指してなんとか登り切れば、あとは穏やかな地形が広がり、のんびりと歩いて行ける。

この辺りは南斜面だが、山頂から標高差200m位はメロメロな疎林で雪質に恵まれば初級者でも楽しく滑れると思う。ただ、そのまま登り返さずに下山するな



ら、大カッパ沢左岸の1428m標高点のある尾根に乗るのが肝要だ。そうしないと急峻な地形に迷い込み苦労することになると思う。また、大カッパ沢右岸尾根も、滑って下山するにはメロ－な斜面が続いていて良いルートだと思う。

ただ、今日の僕たちの狙いは雪質の良い北面なので、この快適そうな疎林の南斜面はただ登るのみである。この斜面を散策気分で快適に歩いて12:05に大行山山頂着。「鈴蘭山の会」が設置した道標があるが、それほど目立たないので、注意していないと見過ごすかもしれない。山頂で記念写真を撮っていると、I崎さんの「スマホがない!!」と青い顔。「さっき見ていたよねえー」「どこまで記憶ある!!」とひと騒動。幸いにも100mほど手前の雪面に落ちていたのが奇跡的に見つかりホッとする。

- ◆写真上 大行山山頂!!
- ◆写真中 標識が気に括り付けてある。
- ◆写真下 メロ－な疎林を滑る。



さて、気を取り直して赤沢目指して北面の滑降だ!! 上部は針葉樹の森だが、すぐに広葉樹の疎林となり、北面ならではの快適な雪質の気持ちの良い斜面が、標高差で約200m続く。今日一番のお楽しみポイントである。ここは気持ち良くてつい声が出てしまう。気づけば自分と同じ猿が3匹、何やら声を上げながら楽しそうに滑ってくる。この斜面を滑る人はほとんどいないのでもちろんノートラック、贅沢な気分を満喫させてもら



う。

お楽しみの後は、1752m峰と1786m峰の鞍部まで、約120mのハイクアップ。ここも静かで気分の良い登りである。鞍部でシールを外せば田代に向け、最後のお楽しみである。斜面が南向きになるので雪質が重くなるが、まあ、滑れない雪ではない。ここは右寄りにルートを探り、できるだけ尾根上を滑るのが肝要だ。快適なところを滑って行くと、崖のような急斜面に入り込んでしまう。我々も入り込みそうになって必死に右の



尾根にトラバースして何とか尾根に乗った。このルート取りは、初見だと要注意である。

田代の南端に降りれば、あとは往路で付けたトレースか林道を行けば自動運転。富士見下山荘跡より上部は林道をショートカットしながら滑れる。この後は勢いを殺さずに滑って行けばスキー場まであっという間である。

今回、予報が悪く、中止も考えたが、来てみれば普通の穏やかな天気で、快適な山行となった。大行山は手頃な割に人も少なく、（アヤメ平方面に行く人はたくさんいた。）自分達だけで山を独り占めできてよかった。今回、気温が高かったので雪質も心配したが、北面は快適なパウダーで南面も何とか普通に滑れる雪質だった。やっぱ来てみないとわからないですね！！今回は来て正解！！ご同行いただいたメンバーの方々、有難うございました！！また、宜しくお願い致します。

◆コースタイム

尾瀬戸倉スキー場（8:45）～（9:45）富士見下山荘跡（9:55）～（12:05）大行山（12:27）～北面滑降～（12:34）1564m付近（12:54）～（13:15）1752峰と1786m峰の鞍部（13:42）～（14:05）尾瀬戸倉スキー場